

デートDV防止出前授業の実施状況

1 実施状況の推移

平成27年度：	8校	874人
平成28年度：	9校	1,200人
平成29年度：	15校	1,253人
平成30年度：	20校実施予定	(1月末時点で13校 1,268人実施済)

2 平成30年度アンケート集計結果【抜粋】(1月末時点)

(1) 回答者の男女割合

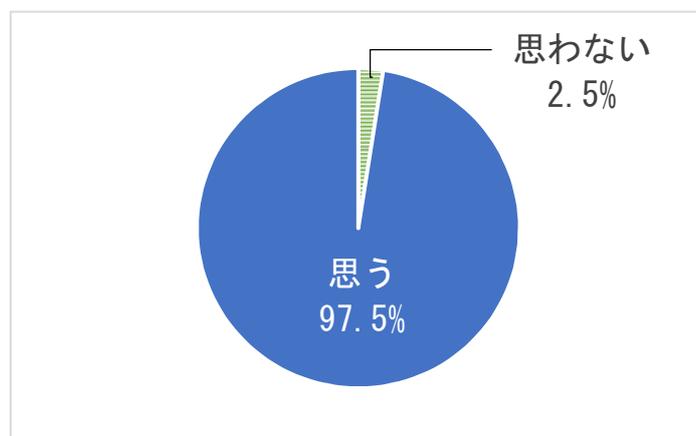
男性：	47.9%
女性：	52.0%
不明：	0.2%

【注意】

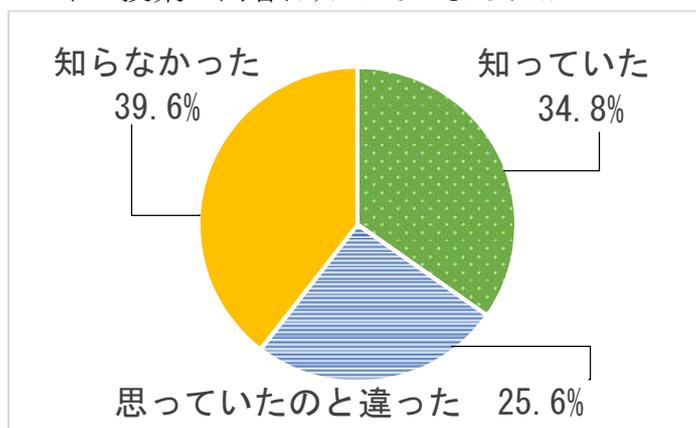
比率は小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示しています。このため、比率の合計が100%にならない場合があります。

(2) 授業について

ア 授業は役立つと思いますか？



イ 授業の内容は知っていましたか？



(3) 授業を受けて、印象に残ったことや感想など（一部）

【注意】 文章は要約したものであり、原文のままではありません。

ア 中学校（9校）

- デートDVがわかったし、将来、役に立つと思った。
- 自分の行動がDVにならないように気を付けたい。
- DVの事で悩んでいる友達がいたら助けてあげる事が大切だと思った。
- トラウマを持つことになるなんて聞いて、とても怖い事なんだと感じ、絶対にしない、そしてさせないという事を守りたいです。
- DVを受けている人は自分に自信がなくなったりすることを知ってびっくりしました。
- 私は付き合ったことはありませんが、もしそうなった時は気をつけたいと思いました。
- DVは暴力（叩く・殴る）のみをDVだと思っていました。精神的や性的、社会的、経済的と色々なものもDVだと初めて知りました。
- これからは自分でも気を付けて友人・恋人関係を作っていこうと思いました。
- 『自分が知らない間に他の人を傷つけている』意識をもって行動したいと思った。
- 自分も絶対しないし、相手にされたらすぐ相談したい。
- デートDVは身近にある大変な事だと感じた。
- DVを相談する所があると聞いて驚きました。
- 友達に冗談で馬鹿にするような言葉を言うてしまうので、やめようと思う。

イ 高等学校（2校）

- 気づいていないだけでデートDVをされていたし、していたのかもしれない。これからは自分の行動に気を付けて、お互い楽しくできるような環境を作りたい。
- 逃げる場所があるのは、DVを受けている方には本当にありがたいことだと思う。自分がその立場になった時に逃げよう、友達だったら教えてあげようと思った。
- 人を愛するのは良いことだけど、相手の気持ちを考えて行動しようと思った。
- 人と人との関係を築くことは決して簡単ではないからこそ、相手のことを思いやった言動や行動が大切になるのだと思いました。
- たくさん被害を受けている人がいて、自分にまったく無縁じゃないことをあらためて自覚しました。もし、自分に好きな人ができたら、もっとよく考えようと思います。
- 前、付き合った人から怖い目にあったときに誰にも相談できなかつたし、本当に怖かったので、すぐに相談するべきだと思いました。
- 自分がしていることがデートDVになっていないか、考えさせられる良い機会になった。
- 今回の授業を受けて、パートナーと話し合ったほうが良いと思いました。
- 中学校の時に受けた時よりも具体的なことが知れてよかったと思いました。今後、自分にも起こるかもしれないと思ったので、今日の授業を参考にしたいと思いました。
- 色々な暴力があることを知って、自分も無意識にしているかもしれないので、気をつけようと思った。相手や周りにされている人がいたら、相談にのったり、助けようと思う。

ウ 看護専門学校（2校）

- 医療従事者として出来ることを聞くことができ、声をかける大切さを知りました。
- 看護師として患者様を相手にするときも、言葉遣いに気を付けたり、否定した態度を取らずに接することが必要だと感じた。
- 親の暴力を見ている子供は脳に影響がでることを初めて知った。コミュニケーション力の低下や知能にも障害がおこるかもしれないので、気をつけようと思った。
- デートDVはとても身近なもので、医療機関もデートDVと関わる場であり、自分がされてないから関係ないというものではないと改めて学びました。これから医療に関わる者として、DVを受けた患者さんへの対応の仕方などを学ぶことができ、とても勉強になりました。
- 自分が思っていなくとも相手がDVだと思ったらDVであることがわかった。
- DVを受けている人自身では、自分がDV対象者であることをわかっていない場合もあるので、それをわかってあげられる看護師になりたいです。
- DVは身近であることだと思うので、今回の講座を忘れずに自分の身を守ったり、他の人を助けられるようになりたいと思います。DVはできるだけ早く気づいて他の人に相談することが大切だと思います。
- 高校生の時にもこの講座を学んだが、DV被害者の診察時の対応や、医療者ができるケアなどを学ぶことができ、より学習を深めることが出来ました。
- 医療現場はDVの被害者を発見しやすいため、看護師として心のケアを行ったり、被害者の話していることを傾聴していきたい。相談機関に行きにくいこともあるため、病院に来た被害者には、そのような機関を紹介したりすることで、DVを減らしていけると思う。
- 周囲で聞いたことがないだけで、苦しんでいる人がいるとわった。もし被害にあっている方が来られた時、自分は気づけるだろうかと考えた。病状や傷の具合だけでなく、患者さんやそのパートナーの様子、関係、会話などを観察したい。被害者を少しでも減らせるよう些細な事に気づけるような看護師になりたい。